

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社花の器	代表者	檜山 真	法人・事業所の特徴	鹿沼市南部の田園地帯の一角にグループホームと併設で、平成24年4月に設立。「あなたらしく」あり続けるために、介護者として必要な力量を兼ね備えられるよう成長を目指すことを、理念としています。常に真摯に向き合い、要望に対して最大限応えることを基本とし、地域に輪を広げながら家族と共に「あなた」を支えていく事業所です。
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設花の器	管理者	檜山 真		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	人	1人	1人	人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	自己評価で出された出来ていない点について、話し合いの機会を設け、改善策を検討する。	当施設の特徴である小中学校との交流や、地域の行事への参加などの活動がコロナ禍で出来なかったが、ケース担当者が主体となり本人の意向に添った活動を個別に行った。	利用者一人ひとりの気持ちに寄り添って関わっている。家族に対しても優しく接してくれている。	感染対策を取りながらどう地域との繋がりを持てるか検討し、平常の生活に戻していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染予防対策を徹底した上で、居心地の良い環境作りに努める。	フロアを広く使うための模様替えをし、各テーブルにはアクリル板を設置するなど感染予防に努めた。感染者が出たときに備えて隔離が出来るよう借家を用意し環境整備を行った。	感染対策を取りながら居心地の良い環境作りに努めていると思う。スタッフは優しく接してくれるので居心地が良いと思える。	感染予防対策の継続と、その人に合った環境の整備に努める。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方が気軽に相談に来れるような開かれた施設にする。	感染防止のため、学校や地域との交流を自粛したため開かれた施設にすることが出来なかった。日々の生活の中で楽しみを見い出し、生活の様子は「咲くやこの花」を自治会の回覧版とご家族への配布し、Facebookでも発信しお知らせした。	自治会の行事も自粛している中、地域と関わりを持つことは難しい一年であった。そのような状況の中でも行事を工夫して行っている様子が「咲くやこの花」で知ることが出来た。	感染対策を取りながら交流事業を再開させる。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	訪問時や送迎時に近所の方などと話をしたり、出来る限り外出の機会を設ける。	コロナ感染者が出た際は、感染拡大防止策として通いの利用者も自宅待機とし訪問による介護の提供で新たな感染者を出さずに済んだ。地域の方々との関係は良好であり、ドライブ等会出の機会は持つことが出来た。	コロナ禍で行動が制限される中でも季節ごとにドライブなど地域へ出向く取り組みがなされていた。	施設内での介護にこだわらず、自宅において生活出来るようハード・ソフト両面の支援体制を整えたい。
E. 運営推進会議を活かした取組み	コロナ禍で会議が開催されない時は、出向いて情報の共有に努める。	新型コロナウイルス感染防止により施設にお集まりいただき運営推進会議を開催することが出来なかったため、書面による報告となってしまった。	コロナ禍で会議は開催されませんが、書面や広報誌で把握できた。施設が資格取得をサポートしていることは良い。	感染予防策を取り会議を開催する。
F. 事業所の防災・災害対策	水害等に備えて備蓄と避難訓練を行う。コロナが収束した際は運営推進委員の皆様にも訓練に参加していただく。	非常時に備えた食糧等の備蓄も行った。新型コロナウイルスにより、マスク、消毒液、手袋等衛生用品も十分備蓄が出来た。避難訓練に参加していただくことは出来なかった。	事業所の行う防災訓練には参加していないが、訓練は行っており対策を講じていることは分かる。	避難訓練の実施と備蓄の確保を行う。